

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント活動状況 (2021年1月)

インパクト調査(小学3年生)結果

CREATE では、新カリキュラムの導入前後の学力や授業の様子を比較するためのインパクト調査を4つのタウンシップの計200校を対象に毎年実施してきており、2020年には、小学3年生（以下、G3）を対象としたインパクト調査が実施されました。今回は、その結果の一部をご紹介します。

新カリキュラムの導入により、算数テストの結果が改善！

調査の結果、新しい教科書で勉強したG3児童の算数テストの平均点が、旧教科書で勉強したG3児童の平均点よりも有意に高いことが明らかになりました。具体的には、新型問題（新しい教科書で取り入れられたより応用力を問うタイプの問題）ばかりでなく、旧来型の問題（知識・理解を問う問題）の正答率も新教科書で勉強したG3児童のほうが有意に高いことがわかりました！これは、G1・G2でも見られた結果と共通しており、3年連続で、新カリキュラムの導入により、児童の学習成果に有意な改善が見られたと推定できる結果となりました！

授業が大きく変わると、しばらくの間学力の向上が難しくなることもあるのですが、このような結果が3年連続で出たことは、プロジェクト関係者一同非常にうれしく、大きな励みとなりました。

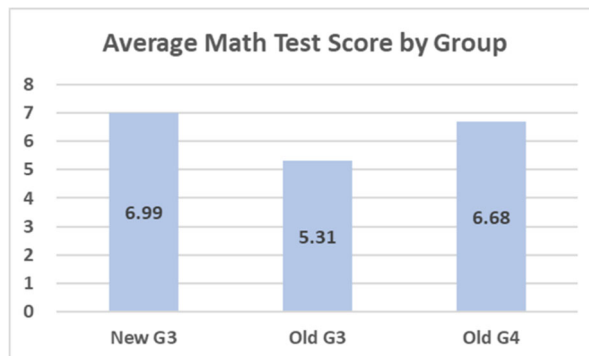


図1：グループ別算数テストの平均点（左から新3年生、旧カリキュラムの3年生、4年生）

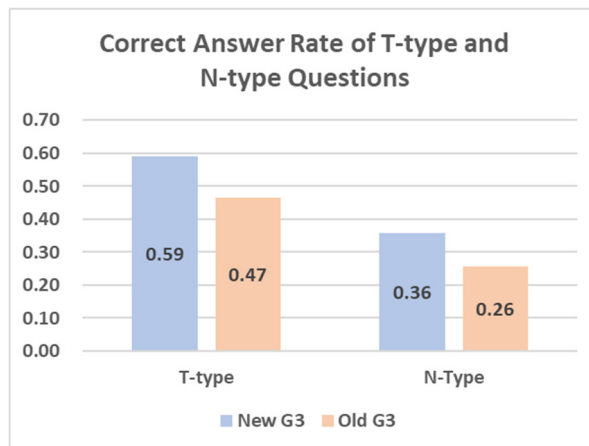


図2：新旧問題別正答率（左が従来型の問題、右が新しいタイプの問題）

女子児童の算数テストの平均点

新教科書で勉強した女子児童の算数テストの平均スコアは、男子児童よりも高いという結果が出ました。旧教科書で勉強した児童についても、統計的に有意な差ではないものの、女子の算数テストの平均点が男子より若干高い結果が出ましたが、新教科書で勉強した児童についてはその差がより大きく、統計的に有意な差となっています。

このような結果は、G1でも見られたため、なぜ女子生徒の点数がより良い結果となったのか、プロジェクトでは、追加調査としてさらに分析していくことにしています。

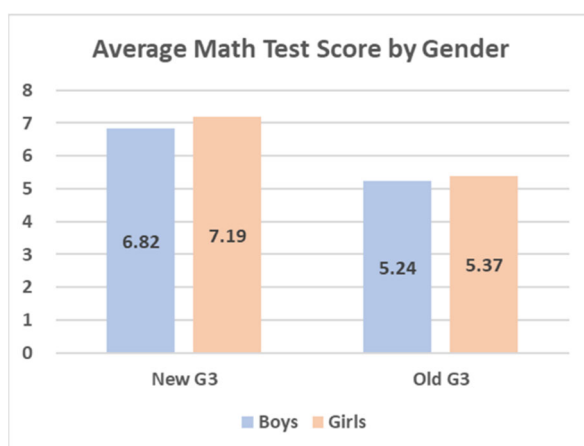


図3：男女別算数テスト平均点



追加分析結果速報

CREATEでは、例年、インパクト調査として、算数のテストと質問紙調査、授業観察を通して、量・質双方のデータを収集し、分析を行ってききましたが、2020年は新型コロナウイルスの影響で休校が続いているため、残念ながらG4を対象とした調査が実施できませんでした。そのため、プロジェクトでは、G4を対象とした調査の代わりに、これまで行ってきたG1～G3対象の調査で収集したデータを使って違う角度から追加分析を行うことにしました。分析は現在も進行中ですが、これまでに出ている結果を速報としてお伝えします。

算数を好きな子どもの割合が増加！

G1からG3の子どもたちに算数が好きかどうか尋ねたところ、新カリキュラムの下で勉強した子どもたちについては、なんと、どの学年でも**90%以上の子どもたちが、算数が好きだと答えた**ことが分かりました。また、どの学年でも、旧カリキュラムで勉強した子どもたちに比べ、新カリキュラムで勉強した子どもたちの方が「算数が好き」と答えた割合が高かったことも分かりました。

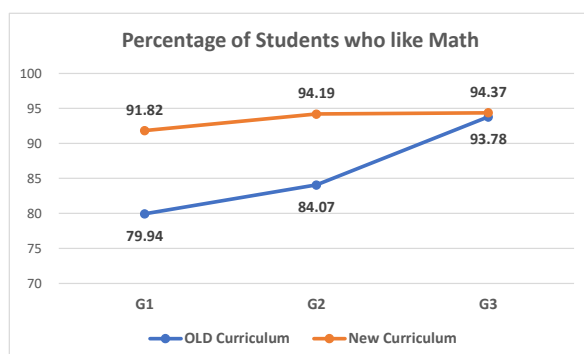


図 4：算数が好きな子どもの割合

特に、女子については、旧カリキュラムで勉強した G1 の女子のうち算数が好きと答えた割合が約 70%であったのに対し、新カリキュラムでは約 90%という結果が出ており、より伸び方が顕著になっています。

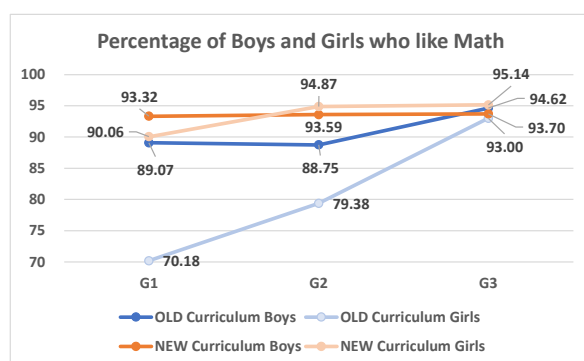


図 5：算数が好きな子どもの割合（男女別）

授業の質の変化

これまでのインパクト調査では、旧カリキュラムで行われた 64 授業、新カリキュラムで行われた 36 授業、計 100 授業について、授業観察を行ってきました。観察の結果は、分析をしやすいように、観察シートを用い、様々な観点（教師の授業構築のスキル、教材の活用度、教師の教授スキル、教師のアセスメントスキル、教師の肯定的な態度、児童の肯定的な態度）から成る 13 の項目に、それぞれ 4 段階のスコアをつけて記録しました。

この観察結果を分析すると、新カリキュラムで行われた授業の方が旧カリキュラムで行われた授業より、スコア合計の平均値が有意に高いことが分かりました。このことから、**新カリキュラム下での授業・学習状況は、新カリキュラム導入以前に比べ、より良いものになっていると推察**されます。

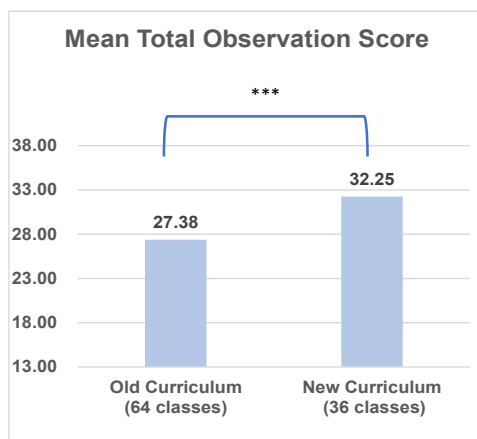


図 6：授業観察スコアの平均値

また、新カリキュラムの授業観察は、2017年にG1、2018年にG2、2019年にG3の順に行ってきましたが、スコア合計の平均はG1からG2・G3にかけて大きく上昇していることもわかりました。G1からG3での調査で、全く同じ先生、同じ授業を観察したわけではないため、注意は必要ですが、**新カリキュラム導入 1年目に比べ、2年目・3年目の方がより、授業・学習状況が良くなっていることが推察**されます。

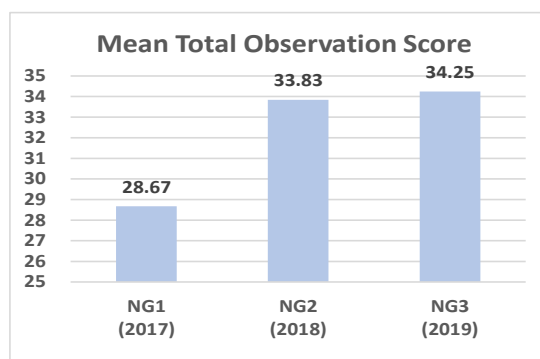


図 7：新カリキュラムで行われた授業の観察スコアの平均値（学年別）



今回ご紹介したように、これまでのインパクト調査を通して、新カリキュラムの導入は、ミャンマーの子どもたちの学習成果にポジティブな影響を及ぼしていると推察されることが分かってきました。G5の教科書・教師用指導書の開発は大詰めを迎えています。これらの教科書もG1～G3のようなインパクトにつながるよう、プロジェクトでは教科書開発・教師研修の両面から支援を続けていきます。

今後、プロジェクトでは、これまでに行ってきたG1～G3を対象としたインパクト調査及び2020年度に行った追加分析を取りまとめた報告書を作成する予定です。

文責： 宮原光、大津璃紗
 (プロジェクト・コーディネーター)
 株式会社パデコ